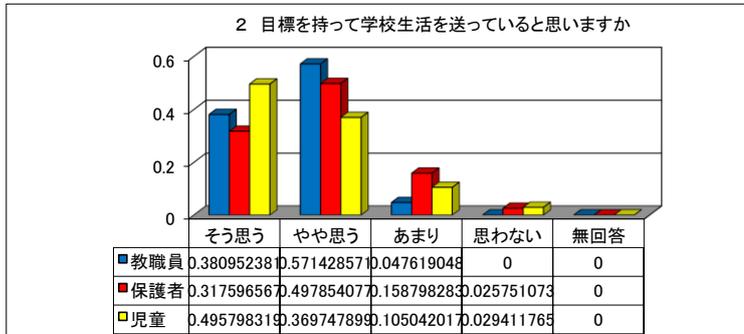


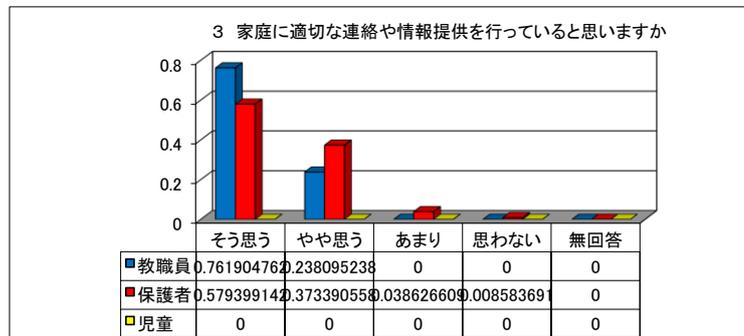
「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員・保護者→95%以上  
 児童→90%

・約7%の児童には、「あまり」や「思わない」と答えている。このように感じている児童がいることを真摯に受け止め、原因をこの後の設問から分析し改善に向けて取り組んでいきます。



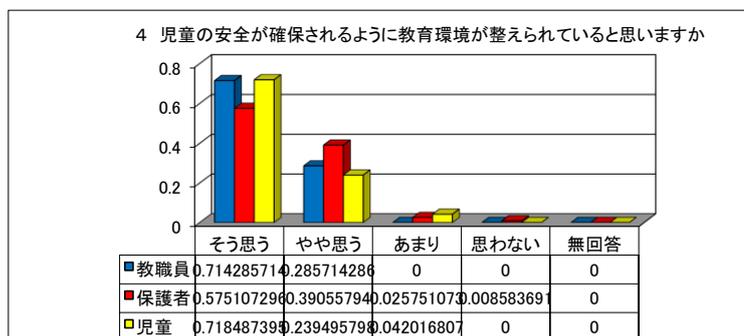
「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員→95%以上  
 保護者→80%以上  
 児童 →85%以上

・保護者の方の評価は厳しくなりがちです。お子さんが、学習面や生活面においてどんなことを目標にしているかを、日常会話を通して理解し、励ましていただきたいと思います。目標を達成することで、満足感や達成感



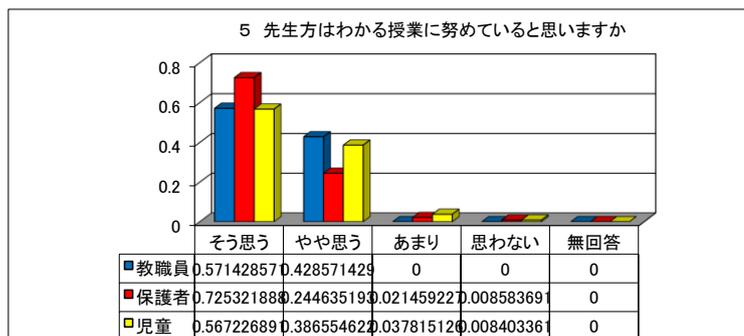
「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員→100%  
 保護者→95%以上

・今後も各文書等の配付やメール等のご連絡、インターネットの通信フォームを使い、正確で迅速な情報提供ができるよう努めていきます。



「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員→100%以上  
 保護者・児童→95%以上

・学校における安全・安心対策は、重要な課題です。今後も、コロナ感染症対策とともに、登下校や校舎建設工事等による安全対策について、関係機関と協力しながら進めて参ります。

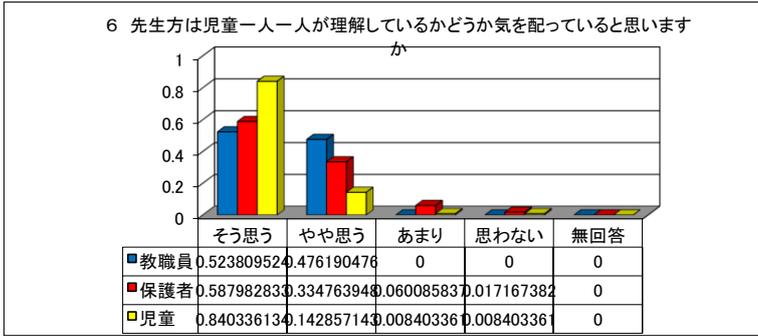


「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員→100%以上  
 保護者・児童→95%以上

・昨年度は、児童の肯定的な評価が90%に届きませんでした。今年度は高い評価になっています。今後も、個々の実態を的確に把握し、児童が主体的に取り組める授業づくりに努めてまいります。

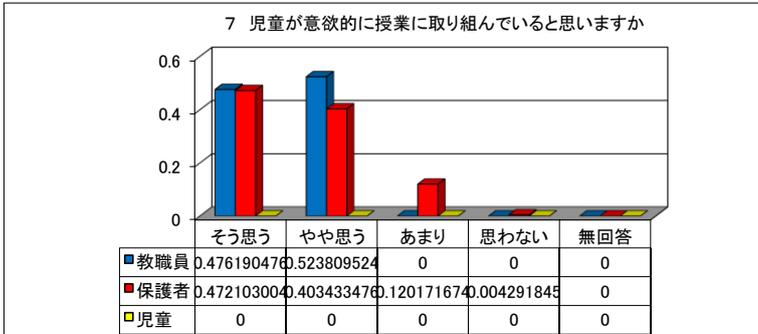
教職員・保護者・児童三者グラフ(2学期実施)

■ 教職員  
■ 保護者  
■ 児童



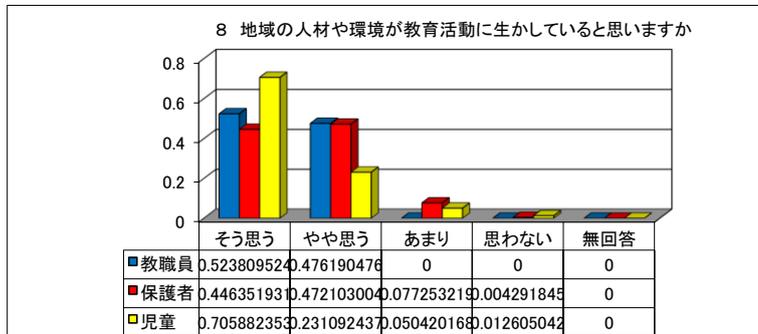
「そう思う」「ややそう思う」  
教職員→100%以上  
保護者→90%以上  
児童→98%以上

・児童の割合が最も高いのは、学校としてはとてもうれしいことです。しかし、「あまり」や「思わない」と答えている児童がいることも重く受け止め、より一層、児童の理解に努めてまいります。



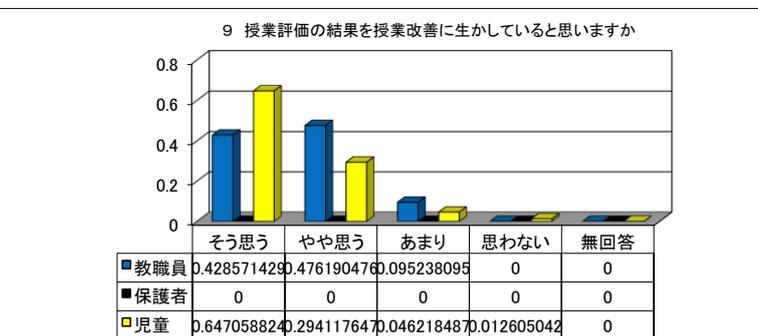
「そう思う」「ややそう思う」  
教職員→100%以上  
保護者→87%以上

・昨年度よりさらに保護者の「そう思う」の割合が、低くなりました。児童が意欲的に取り組む授業づくりをさらに進めるとともに、児童の学習の様子を家庭へ伝える努力を進めていきます。



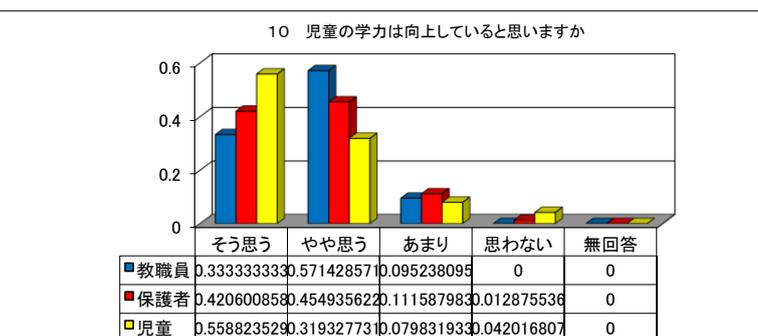
「そう思う」「ややそう思う」  
教職員→100%以上  
保護者・児童→90%以上

・校外学習や各教科等の学習、読み聞かせ等、地域や保護者の方々を講師としてお願いしています。今後も地域の人材や環境を生かす取組を進めていきます。



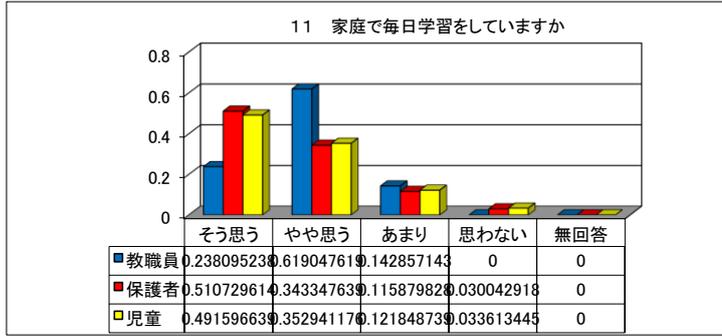
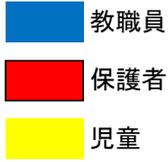
「そう思う」「ややそう思う」  
教職員・児童→90%以上

・児童の評価は昨年度とほぼ同様である一方、教職員の評価が5%ほど低下している。今後は、教員の授業研究や教育技術の研修等を継続するとともに、各種学力調査の結果を踏まえ、児童の課題を踏まえた授業改善に取り組んでいきます。また、業務の多忙化が年々進んでいることも一因として考えられます。教職員の働き方改革も並行して取り組んでいく必要があります。



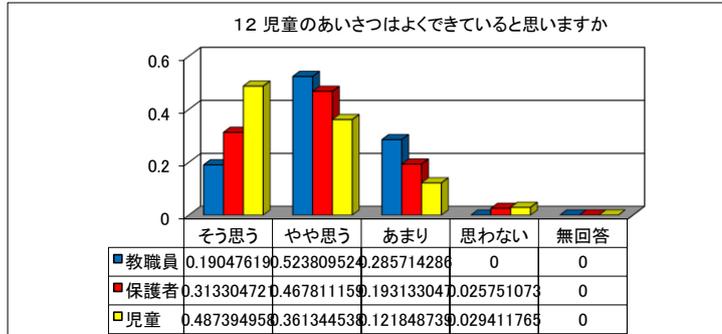
「そう思う」「ややそう思う」  
教職員→90%以上  
保護者・児童→85%以上

・児童の評価が昨年度よりも5%上昇した。児童自身が学力の向上を実感していることはうれしいことです。今後も、教職員が一丸となり授業改善を進めていきます。



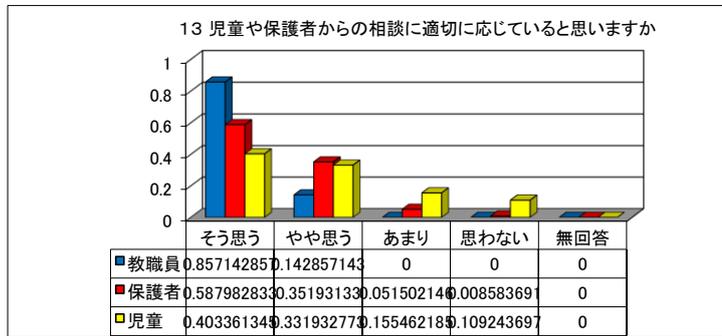
「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員・保護者→85%以上  
 児童→84.5%

・教職員、保護者、児童ともに「そう思う」「ややそう思う」が約85%と高い数値になっています。しかし、「あまり」「思わない」も15%ほどなので、学校では宿題の内容を工夫したり、家庭学習の重要性を説明したりしてまいりますので、ご家庭でも児童への支援をお願いします。



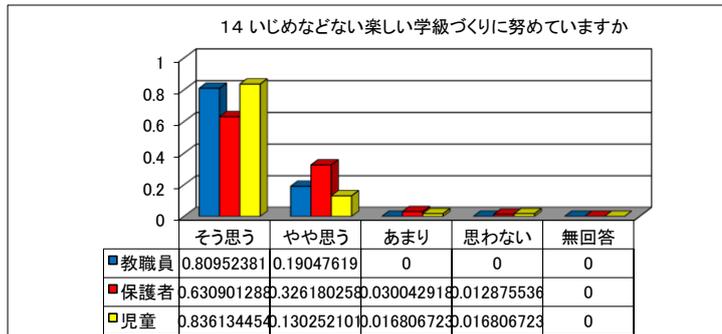
「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員・保護者→80%以下  
 児童→84.8%

・教職員・保護者と児童の認識にずれがあります。児童の感覚では、挨拶をしている意識でも、相手にはうまく伝わっていないという現状があるといえます。あいさつの習慣は、学校と家庭、地域が連携して指導をしていく必要があります。学校においても、児童にあいさつの意義を伝え、根気強く指導していくことで成果が上がるものと考えます。



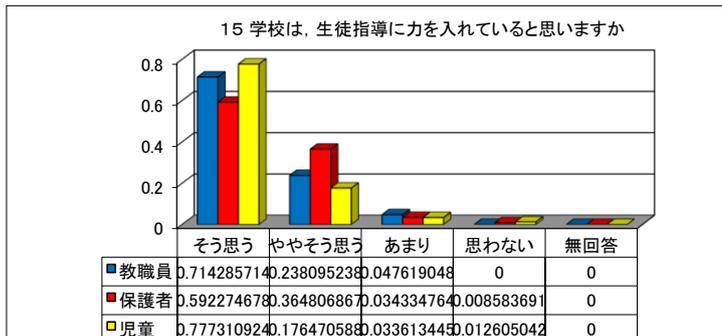
「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員→100%  
 保護者→94%  
 児童→73.5%

・保護者は90%以上の評価になります。しかし、教職員の意識と児童の意識にずれがあります。教職員は、適切に応じていると思っても、その「思い」が、児童に伝わっていない現状です。教職員は「思っている」だけでなく「思っている」ことを具体的に「行動」へ現わしていく姿勢をもっと示せるように努力してまいります。併せて、子どもが相談しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、教職員がゆとりをもって児



「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員→100%  
 保護者・児童→95%以上

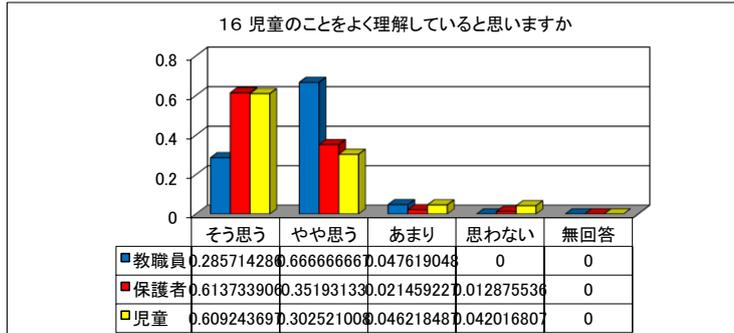
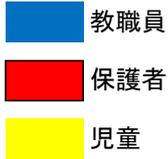
・教職員・保護者・児童の三者とも95%以上の高い数値になります。今後も、児童の小さな変化を見落とさないよう、一人ひとりに寄り添った支援をしていきます。



「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員・保護者・児童→95%以上

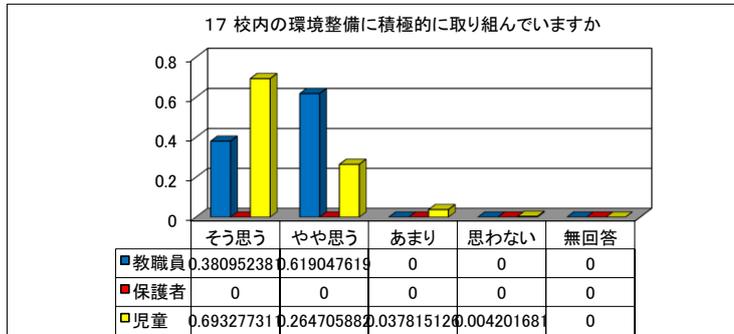
・教職員・保護者・児童の三者とも95%以上の高い数値になります。本校では、「よくわかる！田富北小」で学校統一のルールを示す等、全教職員同一歩調での指導を心がけています。保護者の皆様にも、さらにご理解が深まるよう「共通理解とぶれない指導」を今後も続けてまいります。

教職員・保護者・児童三者グラフ(2学期実施)



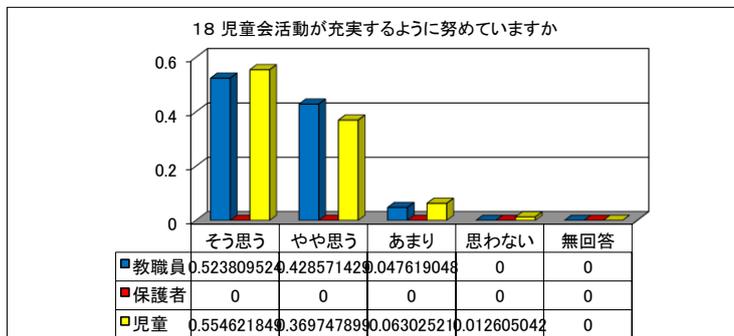
「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員・保護者→95%以上  
 児童→91%

・教職員と保護者は95%以上の高い数値になります。児童も90%以上の数値ですが、「あまり」「思わない」と回答した児童がいることを真摯に受け止め、児童と向き合う時間の確保やきめ細かな配慮・指導ができるよう努めてまいります。



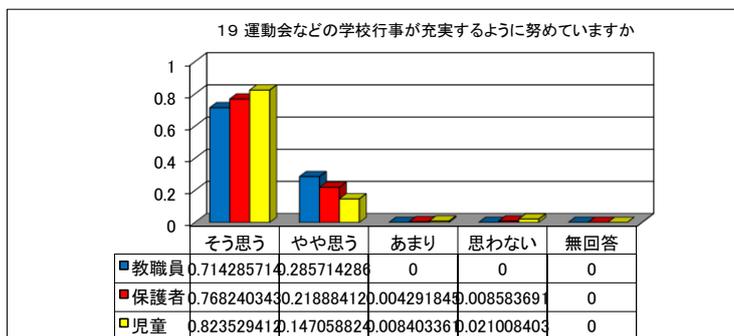
「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員→100%  
 児童→95%

・児童には、「大切に、きれいに使おう」という意識が高いことがうかがえます。清掃活動に関する児童会の取組にも、全校が一つになって活動しました。校内の環境整備には、施設設備の清掃・整備はもちろんですが、感染症予防につながる衛生面の環境整備もあります。今後も積極的な取組を進めていきます。



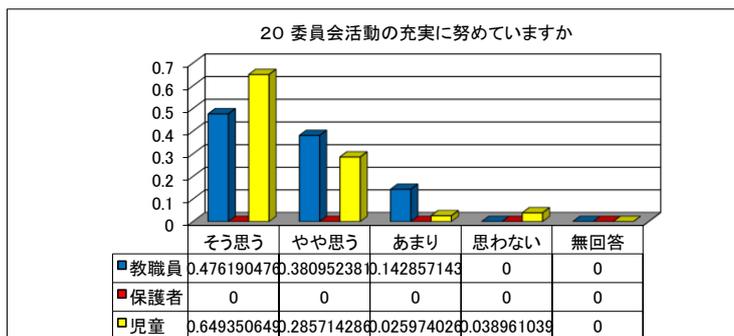
「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員→95%  
 児童→92%

・今年度は、3年ぶりとなる「北小フェスティバル」を実施することができました。たてわり班での異学年の交流活動では、上級生が下級生を思いやる場面が数多く見られました。今後も、児童に自治的な力が身に付いていくように児童会活動の充実に取り組んでいきます。



「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員・保護者・児童→97%以上

・今年度から、市内統一で運動会は午前開催となりました。また、本校舎建設の関係で春開催となりましたが、子どもたちは限られた練習の中で十分力を発揮してくれました。保護者の参観人数も2名とし、子どもたちの活躍をご覧いただくことができました。

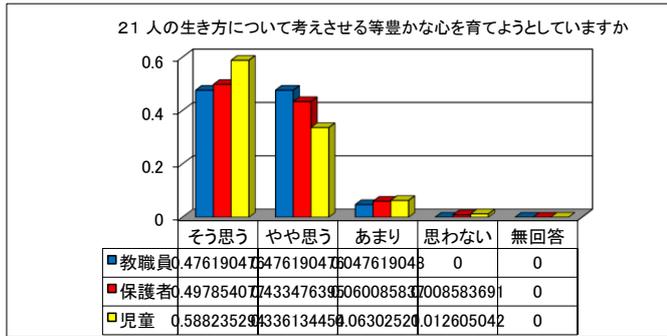


「そう思う」「ややそう思う」  
 教職員→85%  
 児童→93%

・5年生と6年生の児童が参加している委員会活動です。1年生から4年生は、この委員会活動に協力したり、委員会活動によって学校生活を助けてもらったりしています。高学年の児童が仕事を分担して全校児童がより良い学校生活を送れるよう頑張ってくれています。

教職員・保護者・児童三者グラフ(2学期実施)

■ 教職員  
■ 保護者  
■ 児童

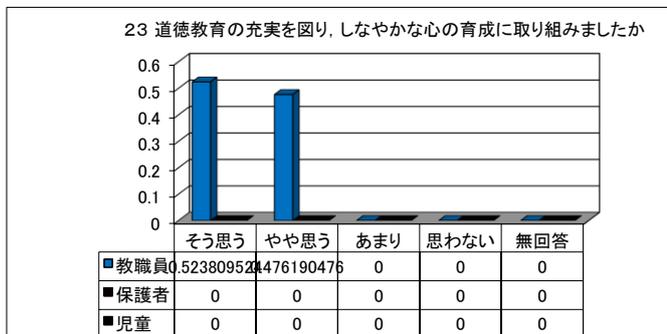


「そう思う」「ややそう思う」  
教職員・保護者・児童→90%以上

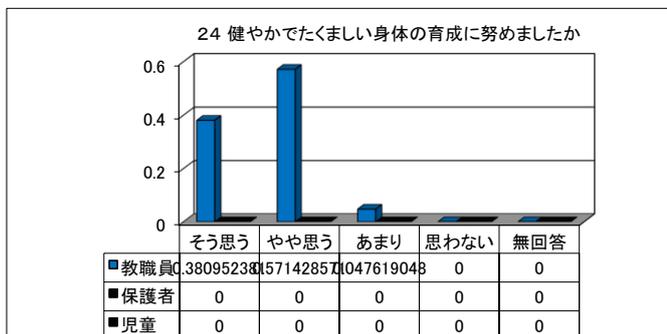
・三者とも90%以上の高い数値でした。本校では、道徳科を中心に児童の豊かな心の育成に努めています。「14いじめのない楽しい学級づくりにつとめていますか」の設問で、児童が95%以上の高い数値を回答していることから、児童に豊かな心が育てられていることがうかがえます。



・児童の学力向上に努めることは、学校の責務であります。児童が確かな学力を身に付けることができるよう、基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、思考力、判断力、表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の涵養を目指す教育の充実に努めていきます。また、今年度は校内研究を中心に端末を活用した授業改善にも取り組んでいます。授業における効果的な端末の活用方法に取り組むとともに、情報モラル教育にも並行して取り組んでいきます。



・道徳教育は、道徳の授業だけでなく、他の教科や学級活動など、学校教育全体を通して行われることが重要です。児童の道徳性が一層豊かに養われていくために、道徳の授業をよりよいものにしていくとともに、各教育活動全般での道徳教育を推進していきます。



・「健やかでたくましい身体の育成」には、体育の授業、クラブ活動、運動会、校外学習や集会などの特別活動やその他の諸活動を相互に関連させながら、学校教育活動全体として取り組むことが求められています。今年度は、3年ぶりとなる学校保健委員会を開催し、校医の今村先生をはじめ、中央市給食センター栄養士の近藤先生から、子どもの健康の保持・増進に係るご指導をしていただきました。



・子どもたちが自分で考え、行動できる大人に成長するためには、学校・家庭・地域社会が、それぞれ適切な役割分担を果たしつつ、相互に連携して行われることが重要です。学校・家庭・地域での様々な経験を通して、子どもは力を付けます。今後も、各種PTA活動や学校運営協議会を中心に、学校が家庭や地域社会にとって垣根の低い開かれたものとなるように教育活動をしてまいります。

